

自由学園は放射能に十分注意しています

学園長 矢野 恭弘

自由学園では、昨年夏休み前より校内に「放射能対応チーム」（アドバイザー：最高学部 杉原弘恭工学博士）を立ち上げ、定期的に会合を開き、生徒たちの校内外での活動のための安全確保策を講じています。また、放射線量の計測などにつきましては、学園の教職員のほか、卒業生の協力も得て進めています。

■ 外部からの影響に対して

1. 学園の校内の放射線量については、毎月定点観測を実施し、安全を確認しています。
地表1mで0.06~0.07 μ Sv/時で低位安定しています。
2. 校外学習先についても、事前に放射線量を計測して、安全性を確認してから実施しています。

■ 内部 — 食材 — からの影響に対して

1. 食材の空間的（産地）・時間的（旬）な分散によるリスク軽減を行っています。
学園での昼食と寮の朝食・夕食では、同じ食材でも産地をかえています。
2. 分散によって色々な食材を食べることで、多様な栄養素の取り込みができ、栄養素と間違っ
て放射性物質を取り込むリスクを減らすとともに、もし低線量被ばくがあった場合も、そ
れにより生成される活性酸素などを消去するのに必要な複数の抗酸化物質・酵素群を生成
させ、すみやかに排泄できるようになります。
3. 食中毒・放射性物質に対応した調理方法（皮をむく、よく洗う、煮こぼす）をすることで
リスクをさらに軽減しています。
4. 調理後の1食分の「日常食」は毎月1回と井戸水は隔月に1回、検査機関に依頼して放射
線量の測定をしています。
5. 学園内の畑で生産される作物などは、適宜検査を依頼し放射線量を確認しています。
6. 校外学習における宿泊先にも、食材に関しての配慮を学園長・食糧部長連名で随時依頼し
ています。

以上

■ お問い合わせ

〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15 自由学園広報室

電話・FAX：042-422-1070 / E-mail：info@jiyu.ac.jp / URL：http://www.jiyu.ac.jp

JIYU 学校法人 自由学園